

第14回 平成26年10月9日例会 ロータリーの豆知識

ロータリー米山記念奨学会

ロータリー米山記念奨学事業とは、全国のロータリアンからの寄付金を財源として、日本で学ぶ私費外国人留学生に奨学金を支給し、支援する国際奨学事業です。将来、日本と世界とを結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成することが事業の使命です。

その歴史は50年以上前にさかのぼります。平和を愛し、青少年に手をさしのべた“日本ロータリーの父”米山梅吉氏の遺徳を記念する事業として、1952年、東京ロータリークラブは、海外からの留学生を支援する国際奨学事業を始めました。やがてそれは、日本全国のロータリークラブの共同事業として発展し、1967年に文部省（現・文部科学省）を主務官庁とする(財)ロータリー米山記念奨学会が設立されました。50有余年の歴史を持ち、世界に類を見ない日本ロータリー独自の多地区合同奉仕活動となっています。

米山記念奨学会の特色

一番の特徴は、その規模です。米山奨学生の採用数は、2013年度より年間700人。世界規模で展開しているロータリー財団国際親善奨学生の年間採用数と同じで、年間事業費は13.6億円（2012年度決算）です。これだけの外国人留学生を支援している奨学団体は、事業規模・採用数とも日本国内では民間最大です。これまでに支援した奨学生数は累計で17,545人（2013年7月現在）、その出身国は、世界121の国と地域に及びます。米山学友（元米山奨学生）は、韓国駐日大使やスリランカ警察庁長官、韓国・台湾のガバナーに就任した人など、世界中で活躍しています。

世話クラブ・カウンセラー制度

米山奨学金には、奨学金による経済的な支援だけでなく、ロータリークラブ独自の世話クラブとカウンセラー制度による心の通った支援があります。

世話クラブとは？

日本には約2,300のロータリークラブがあります。そのうち1つのクラブが、1人の奨学生の「世話クラブ」となります。米山奨学生は世話クラブの例会に月に一度出席し、ロータリー会員と積極的に交流して国際交流・相互理解を深めるとともに、ロータリーの奉仕の心を学びます。

奨学会に対する寄付金

1.普通寄付金

日本の全ロータリアンからクラブを通じて定期的にする寄付。各クラブで会員1人あたりの金額を決定し、会員数分を半期に一度送金します。

2.特別寄付金

個人、クラブまたは法人として、普通寄付以外に寄付されるもので、金額も時期も問いません。特別寄付はロータリークラブ以外の個人、法人、団体からも受けることができます。（税制上の優遇措置あり）

★表彰制度（一部）

米山功労者（個人） 個人の特別寄付金の累計額が10万円に達したときに、第1回米山功労者として表彰され、感謝状が贈られます。第2回から第9回（20万円～90万円）に達した方を「米山功労者（マルチプル）」、第10回以上（100万円以上）の方を米山功労者（メジャードナー）と呼び、10万円ごとに感謝状、100万円ごとにピンバッジが贈られます。このほか、法人やクラブからの寄附に対しての表彰制度があります。

（文責 丹治正博）